

日本語教育学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語教育学特論Ⅰ	言語理解学習過程	2	小河原義朗	後期 火曜日 2講時	日本語教育論特論Ⅰ
日本語教育学特論Ⅱ	日本語学習者と学び	2	島崎 薫	前期 火曜日 2講時	日本語教育論特論Ⅱ
日本語教育学特論Ⅲ	グローバル化社会における日本語教育	2	嶋 ちはる	後期集中 その他 連講	日本語教育論特論Ⅲ
日本語教育学総合演習Ⅰ	課題研究Ⅰ	2	小河原義朗・島崎薫	前期 水曜日 5講時	
日本語教育学総合演習Ⅱ	課題研究Ⅱ	2	小河原義朗	後期 水曜日 5講時	
日本語教育方法論研究演習Ⅰ	日本語教育における質的調査法	2	島崎 薫	前期 月曜日 3講時	日本語教育論講読
日本語教育方法論研究演習Ⅱ	第二言語習得研究	2	小河原義朗	前期 月曜日 2講時	
日本語教育方法論研究演習Ⅲ	会話（雑談）の教え方を考える	2	西郷 英樹	前期集中 その他 連講	
日本語教育学研究演習Ⅰ	地域日本語支援	2	中川 祐治	後期 金曜日 2講時	日本語教育論研究演習Ⅰ
日本語教育学研究演習Ⅱ	言語技能と教育	2	小河原義朗	前期 金曜日 3講時	日本語教育論研究演習Ⅱ
日本語教育学研究実習Ⅰ	プログラムをデザインする	2	小河原 義朗	前期 水曜日 3講時 前期 水曜日 4講時	日本語教育論実習Ⅰ
日本語教育学研究実習Ⅱ	プログラムを運営し、評価する	2	小河原 義朗	前期 水曜日 3講時 前期 水曜日 4講時	日本語教育論実習Ⅱ

科目名：日本語教育学特論 I / Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：小河原義朗

コード：LM22205 科目ナンバリング：LJS-LIN615J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論特論 I】

1. 授業題目：言語理解学習過程
2. Course Title (授業題目)：The process of Language learning and understanding
3. 授業の目的と概要：人がことばを理解し学習するとはどういうことなのか、その様々な考え方や理論について理解を深める。その上で、聴解または読解の教材を分析し、教材案を作成し、模擬授業を実施して授業分析をすることによって、教育方法や学習方法の改善につなげる。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students deepen their understanding of theories related to language learning. Students also analyze various teaching materials, their own teaching materials, and their microteaching practices to improve their ways of teaching in class.
5. 学習の到達目標：
 - (1) 言語の理解・学習過程についての理論的な背景を理解し、説明できる。
 - (2) 理論的な背景を踏まえて、教材を分析・作成し、実践に結び付けることができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is
 1. to help students explain theoretical backgrounds of language learning
 2. to provide them opportunities to analyze, create effective teaching materials and be able to apply them to teaching practice.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：）

第1回：イントロダクション

第2回：言語の学習とは

第3回：言語理解学習のメカニズム

第4回：言語の記憶・処理過程

第5回：言語の理解・産出過程

第6回：学習科学

第7回：教材分析（聴解）

第8回：教材作成（聴解）

第9回：模擬授業（聴解）

第10回：授業分析（聴解）

第11回：教材分析（読解）

第12回：教材作成（読解）

第13回：模擬授業（読解）

第14回：授業分析（読解）

第15回：まとめ
8. 成績評価方法：

レポート 30%、授業参加度 30%、授業課題 40%
9. 教科書および参考書：

卯城祐司(2009)『英語リーディングの科学』研究社
10. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。
「日本語教育学研究実習」を履修していること。

科目名：日本語教育学特論Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：島崎薫

コード：LM12208 科目ナンバリング：LJS-LIN616J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論特論Ⅱ】

1. 授業題目：日本語学習者と学び
 2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Learners and Learning
 3. 授業の目的と概要：この授業では、学習に関する基本的な理論を学ぶとともに、それらの理論をどのように日本語教育をはじめとした言語教育の現場や留学生と国内学生がともに学ぶ国際共修などに応用できるのかを考える。授業の中で、理論を使い、授業をデザインする活動も行う。
 4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will understand the fundamental learning theories and think how these theories can be applied in language classes and intercultural co-learning classes. The course will provide students with opportunities to design a class based on the theories.
 5. 学習の到達目標：
 - ・学習に関する基本的な理論を理解し、説明することができる
 - ・それらの理論を利用した授業をデザインすることができる
 6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
 - ・understand and describe fundamental learning theories
 - ・design a class by using these theories
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：イントロダクション、教育と学習について考える
 - 第2回：社会文化理論から学習をとらえる
 - 第3回：4つの学習モデル（学習転移モデル、経験学習モデル、批判的学習モデル、正統的周辺参加モデル）
 - 第4回：インストラクショナルデザインとは
 - 第5回：学習環境デザインとは
 - 第6回：学習環境デザインの理論
 - 第7回：実践コミュニティとは
 - 第8回：実践コミュニティの理論
 - 第9回：インストラクショナルデザインと学習環境デザインの融合
 - 第10回：授業をデザインする：実践を分析する
 - 第11回：授業をデザインする：実践を考える
 - 第12回：授業をデザインする：発表準備
 - 第13回：中間発表、コメント
 - 第14回：修正
 - 第15回：最終発表、まとめ
 8. 成績評価方法：
 - 授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%
 9. 教科書および参考書：
 - 教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
- No textbooks will be used. References are handed out at class.
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：日本語教育学特論Ⅲ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：嶋ちはる

コード：LM98805 科目ナンバリング：LJS-LIN617J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論特論Ⅲ】

1. 授業題目：グローバル化社会における日本語教育
2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Education in the Context of Globalization
3. 授業の目的と概要：本コースでは、グローバル化により多言語・多文化化している日本語使用環境において、L1、L2 話者がともにどのようなリソースを使いながらインターアクションを行っているのかについて理解を深めることを目的とする。また、従来の日本語教育で扱われてきた「母語話者/非母語話者」といった固定化された二項対立の概念を批判的に捉え直し、多様化する社会の中で関係性をより流動的に捉える必要性について議論する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to assist the students to deepen their understanding of the interaction processes in contact situations where both L1 and L2 Japanese speakers employ various resources. It is also expected that students will critically examine the fixed dichotomous concepts such as “native speaker” and “non-native speaker”, which is often used in conventional second language education, and discuss how alternative identities can contribute to better understand the increasingly diversifying society.
5. 学習の到達目標：
このコースの修了者は以下の3点について学ぶことが期待されている。
 1. グローバル化社会の中で、多言語・多文化化する日本の現状とその課題について理解する。
 2. 読み物やL2話者の日本語使用の観察、学生自身の言語使用についての内省を通じ、環境や力関係、これまでの経験がどのように言語学習を含む言語使用やアイデンティティ構築の過程に関わっているのかを理解する。
 3. 日本語母語話者を規範とする従来の日本語教育において用いられることの多い「母語話者/非母語話者」「日本人/外国人」といった固定化された関係性や標準化された日本語の習得をゴールとする言語教育観を批判的に捉え直し、多文化共生社会に向け、言語教師はどのように問題解決に貢献できるかについて自分なりの考えを持つことができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of the course, successful students will be able to:
 1. Have a deeper understanding of the current situation of Japanese society which has been increasingly becoming multilingual/multicultural world.
 2. Understand how the contexts and power relations in which L2 Japanese speakers are placed impact their language learning and identity construction processes through assigned readings, observation of interaction, as well as students’ introspection of their own experiences.
 3. Critically examine the dichotomous concepts such as “native speaker vs. non-native speaker” “Japanese vs. foreigner”, which is often used in conventional Japanese language education, and develop their own ideas about the roles of Japanese language education and teaching professionals’ expertise toward better understanding of a multicultural society.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 1. 私の言語リソースとアイデンティティ
 2. 多言語・多文化化する日本の現状
 3. 多言語支援とやさしい日本語の課題
 4. 日本語母語話者と非母語話者の相互行為の非対称性
 5. 母語話者規範とステレオタイプ構築
 6. コードスイッチングとトランスランゲージング
 7. 接触場面とマルチ・モーダルなコミュニケーション
 8. 最終プロジェクト中間発表
 9. 接触場面におけるインターアクション (1)：雑談場面
 10. 接触場面におけるインターアクション(2)：教室場面
 11. 接触場面におけるインターアクション(3)：就労場面(1)
 12. 接触場面におけるインターアクション(4)：就労場面(2)
 13. 発表
 14. 発表
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
出席及び授業参加 (25%)、課題 (25%)、ディスカッションリーダー (10%) 発表 (10%)、最終レポート (30%)
9. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考資料は授業時に配布する。
10. 授業時間外学習：課されている文献の予習
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本語教育学総合演習 I / Applied Japanese Linguistics(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：小河原義朗・島崎薫

コード：LM13506 科目ナンバリング：LJS-LIN618J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：課題研究 I

2. Course Title (授業題目) : Topic Research 1

3. 授業の目的と概要： 大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course provides students with opportunities to make a presentation about their own study topics (the current progress status, the research plan and the results of analyses) and have in-depth discussion between themselves afterwards.

5. 学習の到達目標：

参加者相互の研究発表を通じて、

(1) 様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。

(2) 聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。

(3) 各自の研究を着実に進めることができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will be able to learn:

1. the principles of studying Japanese language teaching according to the themes, and how to apply them appropriately.

2. an audience-appropriate presentations and question-and-answer sessions

3. steadily progress in their own study

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：オリエンテーション

第 2 回：修士課程 2 年生による進捗状況報告 (課題)

第 3 回：修士課程 2 年生による進捗状況報告 (先行研究)

第 4 回：修士課程 1 年生による研究計画報告 (背景)

第 5 回：修士課程 1 年生による研究計画報告 (課題)

第 6 回：博士課程院生によるプレゼンテーション (研究計画)

第 7 回：博士課程院生によるプレゼンテーション (進捗状況)

第 8 回：大学院研究生によるプレゼンテーション (研究計画)

第 9 回：修士課程 2 年生による結果報告

第 10 回：修士課程 2 年生による分析報告

第 11 回：修士課程 1 年生による進捗状況報告 (目的)

第 12 回：修士課程 1 年生による進捗状況報告 (先行研究)

第 13 回：博士課程院生によるプレゼンテーション (結果報告)

第 14 回：博士課程院生によるプレゼンテーション (分析報告)

第 15 回：大学院研究生によるプレゼンテーション (結果報告)

8. 成績評価方法：

プレゼンテーション (30%)、レポート (30%)、授業参加度 (40%)

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学総合演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Integration Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：小河原義朗

コード：LM23505 科目ナンバリング：LJS-LIN619J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：課題研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Topic Research 2

3. 授業の目的と概要： 大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students with opportunities to make a presentation about their own study (the current progress status, the research plan and the results of analyses) and have in-depth discussion between themselves.

5. 学習の到達目標：

参加者相互の研究発表を通じて、

(1)様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。

(2)聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。

(3)各自の研究を着実に進めることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to learn:

1. the principles of studying Japanese language teaching according to the themes, and how to apply them appropriately.

2. an audience-appropriate presentations and question-and-answer sessions

3. steadily progress in their own study

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：）

第1回：オリエンテーション

第2回：修士課程2年生による進捗状況報告（課題）とディスカッション

第3回：修士課程2年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第4回：修士課程1年生による研究計画報告（背景）とディスカッション

第5回：修士課程1年生による研究計画報告（課題）とディスカッション

第6回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第7回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）とディスカッション

第8回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第9回：修士課程2年生による結果報告とディスカッション

第10回：修士課程2年生による分析報告とディスカッション

第11回：修士課程1年生による進捗状況報告（目的）とディスカッション

第12回：修士課程1年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第13回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

第14回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）とディスカッション

第15回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

8. 成績評価方法：

プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本語教育方法論研究演習 I / Methodologies in Japanese Language Teaching (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM13209 科目ナンバリング：LJS-LIN620J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論講読】

1. 授業題目：日本語教育における質的調査法
2. Course Title (授業題目)：Qualitative research in Japanese Language Education
3. 授業の目的と概要：学習者が持つ文化背景や考え方についての理解を深める質的研究の方法を学ぶ。研究計画、実施、そして論文作成に關しての基礎的な知識を得る。授業の中では、先行研究のまとめ方、問いの立て方、インタビュー、観察といった研究方法について学び、実際に自身の研究計画を作成する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course helps students learn the method of qualitative research in order to understand Japanese language learners' backgrounds. Students will earn fundamental knowledge of process of qualitative research such as creating research a plan, conducting a qualitative research and writing up a paper. In this course, students will review previous studies, make research questions, get to know research methodologies such as interview and observation. At the end, they will complete their own research proposal.
5. 学習の到達目標：
 - ・質的研究法の理論的背景、強みと弱み、倫理的課題を理解した上で、質的研究法を用いた研究計画を立てることができる。
 - ・研究論文の要素、構成、慣習を理解し、論文作成のための基礎的な知識を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of the course, successful students will be able to:
 - Understand theoretical background, strengths/weaknesses and ethical issues of qualitative research and make a research plan by using them
 - Gain the fundamental knowledge of elements, structure and custom of research paper.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 (4/14) イントロダクション、質的研究とは①
 - 第2回 (4/21) 質的研究とは②
 - 第3回 (4/28) 研究の切り口
 - 第4回 (5/12) 問いを立てる
 - 第5回 (5/19) 序章とは
 - 第6回 (5/26) 先行研究をまとめる①
 - 第7回 (6/2) 先行研究をまとめる②
 - 第8回 (6/9) インタビュー①
 - 第9回 (6/16) インタビュー②
 - 第10回 (6/23) 観察①
 - 第11回 (6/30) 観察②
 - 第12回 (7/7) 研究方法の検討①
 - 第13回 (7/14) 研究方法の検討②
 - 第14回 (7/21) 研究倫理
 - 第15回 (8/4) まとめ

*5/5、7/28 は、祝日のため休講。
8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：

太田裕子 (2019)『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ -研究計画から論文作成まで-』東京図書。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本語教育方法論研究演習Ⅱ／ Methodologies in Japanese Language Teaching(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：小河原義朗

コード：LM11205 科目ナンバリング：LJS-LIN621J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：第二言語習得研究

2. Course Title (授業題目)：Second Language Acquisition Research

3. 授業の目的と概要：日本語を教えるための理論的アプローチの一つとして第二言語習得研究を取り上げる。第二言語習得の基本的な考え方を理解し、具体的な教材や教室活動と結び付けて捉えることによって、第二言語習得理論を踏まえた授業実践について考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand the basic knowledge of SLA and consider it relating to various teaching practice(teaching materials and classroom activities)

5. 学習の到達目標：

(1)第二言語習得の基本的な考え方を理解し、説明できる。

(2)第二言語習得研究の知見を日本語教育の具体的な授業実践と結び付けて考えることができる。

(3)第二言語習得研究の方法論を自らの研究に活用することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to be able to:

1. explain the basic knowledge of SLA

2. consider it relating to practice in Japanese language teaching

3. apply it to their own study.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. 第二言語習得研究

3. 中間言語

4. 母語の影響

5. 習得順序

6. インプットとアウトプット

7. 教室における学習

8. 言語習得要因

9. バイリンガル教育

10. 第二言語習得研究と日本語教育

11. 第二言語習得研究の方法

12. 文献講読

13. 文献講読

14. 文献講読

15. 文献講読とまとめ

8. 成績評価方法：

テスト 30%・課題 40%・授業参加度 30%

9. 教科書および参考書：

教科書：大関浩美(2010)『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版

10. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育方法論研究演習Ⅲ／ Methodologies in Japanese Language Teaching(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：西郷英樹

コード：LM98811 科目ナンバリング：LJS-LIN622J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：会話（雑談）の教え方を考える
2. Course Title (授業題目)：Teaching conversation (small talk)
3. 授業の目的と概要：本授業では、会話の授業を効果的に行うための実践的な内容を扱う。特に日本語教育で未開拓である雑談の指導を深く掘り下げ、どのような日本語を教えることが学習者の雑談力向上に結び付くのかを考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class deals with practical content for the effective teaching of conversation. In particular, we will delve deeply into the teaching of small talk, which remains unexplored in Japanese language education, and consider what kind of Japanese should be taught to improve learners' small talk skills.
5. 学習の到達目標：
 - ・会話の授業の環境づくりの重要性が理解できる。
 - ・会話の種類及び特徴が理解できる。
 - ・雑談の種類及び特徴が理解できる。
 - ・雑談に役立つ語彙・文レベルの日本語の特徴が理解できる。
 - ・雑談に役立つ談話レベルの日本語の特徴が理解できる。
 - ・会話の授業の進め方のポイントについて理解できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：As a result of this course, you will gain the following skills.
 - ・Understand the importance of creating an environment for conversation classes
 - ・Understand the types and characteristics of conversations
 - ・Understand the types and characteristics of small talk
 - ・Understand the characteristics of useful Japanese for small talk at the vocabulary and sentence level
 - ・Understand the characteristics of useful Japanese at the discourse level
 - ・Understand practical points for teaching conversation classes
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. 会話の授業の環境作り
 3. 会話の種類・会話の授業とは何か
 4. 雑談に役立つ語彙・文レベルの日本語（1）
 5. 雑談に役立つ語彙・文レベルの日本語（2）
 6. 雑談に役立つ語彙・文レベルの日本語（3）
 7. 雑談に役立つ談話レベルの日本語（1）
 8. 雑談に役立つ談話レベルの日本語（2）
 9. 雑談に役立つ談話レベルの日本語（3）
 10. 雑談の種類とその特徴
 11. 会話の授業のポイント
 12. 発表（1）
 13. 発表（2）
 14. 発表（3）
 15. 発表（4）、まとめ
8. 成績評価方法：

出席（10%）、クラス貢献度（40%）、発表（振り返りレポート含む）（50%）により評価する。欠席3回で、自動的に不可となる。遅刻・早退は、2回で欠席1回とみなす。
9. 教科書および参考書：

教科書：西郷英樹・清水崇文（2018）『日本語教師のための日常会話がグーンとアップする雑談指導のススメ』凡人社
Saigo, H and Shimizu, T (2018) Nihongo kyoshi no tame no nichijo kaiwaryoku ga gun to appu suru zatsudan shido no susume, Bonjinsha
10. 授業時間外学習：毎回の授業で学んだ内容が、学習者の学習意欲を刺激できるように、どのように実際のクラス活動に応用ができるかを考えること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
授業形態（対面／オンライン）、履修者数、履修者の授業内容の理解度により、授業内容（スケジュール）が多少変更になる場合がある。

科目名：日本語教育学研究演習 I / Applied Japanese Linguistics(Advanced Seminar)I

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：中川 祐治

コード：LM23209 科目ナンバリング：LJS-LIN623J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論研究演習 I】

1. 授業題目：地域日本語支援
2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Support in Local Communities
3. 授業の目的と概要：日本語支援の様々な現場について調べ、変遷や背景を理解するとともに、実際に現場を見学し、体験することで、それぞれの現場の学習者や教師、置かれている環境について理解を深め、支援の在り方について考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students with opportunities to explore Japanese language support for foreigners in local communities and enhance their understanding of its history and backgrounds. In observing and participating in activities conducted by local communities and governments, students can further understand participants and instructors/volunteers, and deepen their thought of how such support should be.
5. 学習の到達目標：
 - ・多様な日本語の現場について理解し、説明できる。
 - ・日本語の現場の多様な学習者について理解し、説明できる。
 - ・その多様な現場での支援の在り方について自分なりに考えることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
 - understand and describe various Japanese language support in local communities
 - understand and describe the diversity of foreigners/Japanese language learners in local communities
 - make their own idea of how local communities should support such diverse foreigners/Japanese language learners
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第 1 回 (10/1 金)：イントロダクション
 - 第 2 回 (10/8 金)：地域日本語支援の現状と課題
 - 第 3 回 (10/15 金)：地域日本語支援の教材
 - 第 4 回 (10/22 金)：地域日本語支援者に求められる資質・能力
 - 第 5 回 (10/29 金)：地域日本語の現場について調べる (1)
 - 第 6 回 (11/12 金)：地域日本語の現場について調べる (2)
 - 第 7 回 (11/19 金)：発表の準備
 - 第 8 回 (11/26 金)：発表
 - 第 9 回 (12/3 金)：支援の現場に入る心構え・準備
 - 第 10 回 (12/10 金)：支援の現場の実際 (1)
 - 第 11 回 (12/17 金)：支援の現場の実際 (2)
 - 第 12 回 (12/24 金)：支援の現場の実際 (3)
 - 第 13 回 (1/7 金)：ふり返り (1)
 - 第 14 回 (1/14 金)：ふり返り (2)
 - 第 15 回 (1/21 金)：まとめ
8. 成績評価方法：

授業での課題 30%、最終レポート 40%、授業への参加態度 30%
9. 教科書および参考書：

特に指定しない。必要な場合は適宜指示する。

No textbooks will be used. References (handouts) will be explained in the class, when needed.
10. 授業時間外学習：文献の読解、資料の取りまとめ、発表の準備
Students are required to read references, gather the information and prepare for presentations.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本語教育学研究演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Seminar)II

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：小河原義朗

コード：LM15302 科目ナンバリング：LJS-LIN624J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：言語技能と教育

2. Course Title (授業題目)：Language skills and Teaching

3. 授業の目的と概要： 学習者が話す、または書くことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉・書き言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、または書き言葉の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話す、または書く可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、評価する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will explore what language teachers should do to improve learners speaking/writing skills in the Japanese language classroom,

5. 学習の到達目標：

(1)話す、または書くことを教えるためのシラバス・教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。

(2)目的に応じて話す、または書くことを教えるためのシラバス・教室活動を考え、教材を作り、評価することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:

1.better understand syllabus and classroom activities to improve learners speaking/writing skills

2.create effective teaching materials and evaluate them for themselves

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：コミュニケーション活動の実際1

第3回：コミュニケーション活動の実際2

第4回：会話・作文の分析1

第5回：シラバスの検討1

第6回：教室活動の検討1

第7回：会話・作文の分析2

第8回：シラバスの検討2

第9回：教室活動の検討2

第10回：会話・作文の分析3

第11回：シラバスの検討3

第12回：教室活動の検討3

第13回：フィードバックと評価1

第14回：フィードバックと評価2

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

レポート30%・課題40%・授業参加度30%

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

「日本語教育学研究実習」を履修していること。

科目名：日本語教育学研究実習 I / Applied Japanese Linguistics (Practice) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時、前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM11306 科目ナンバリング：LJS-LIN625J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論実習 I】

1. 授業題目：プログラムをデザインする

2. Course Title (授業題目) : Design a Language Program

3. 授業の目的と概要：この授業では、多様な学習者それぞれのニーズやレディネス、環境などの現状を分析し、社会からのニーズも鑑みた上で、総合的に判断し、学習者にとって最適なプログラムをデザインできるコーディネーターの育成を目指す。またプログラムをコーディネートする上で、周囲の人との連携は不可欠であることから、この実習でも他の学生と協働でプログラムをデザインし、運営していくことで、他者と協働的実行力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course aims to develop a coordinator who can analyze the needs, readiness and living environment of learners with diverse backgrounds, consider the social situation around them, and design the most appropriate program. Since it is also necessary to earn ability to coordinate a program with other instructors, this course will provide students with an opportunity to design and carry out a program together.

5. 学習の到達目標：

- ・コースデザインにおける基礎的な知識を実践で運用し、学習者自身や学習者の状況に合わせたコースをデザインすることができる
- ・プログラムを評価する適切な方法について考えることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標) : After completion of this course, students are expected to:

- ・design an appropriate program for learners by using fundamental knowledge of course design.
- ・decide an appropriate evaluation methods of program

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション、コースデザインの基礎知識の復習

第2回：対象者のニーズ、レディネス

第3回：プログラムのテーマ

第4回：シラバスの検討①

第5回：シラバスの検討②

第6回：シラバスの検討③

第7回：発表、コメント

第8回：シラバス修正案の検討

第9回：カリキュラム案の検討

第10回：カリキュラム案の発表、コメント①

第11回：カリキュラム案の発表、コメント②

第12回：カリキュラム案の発表、コメント③

第13回：カリキュラム案の再検討

第14回：カリキュラム案の発表、コメント①

第15回：カリキュラム案の発表、コメント②

8. 成績評価方法：

レポート (20%)・課題 (40%)・クラス参加度 (40%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本語教育学研究実習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Practice)II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時、後期 水曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM21304 科目ナンバリング：LJS-LIN626J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：日本語教育論実習Ⅱ】

1. 授業題目：プログラムを運営し、評価する

2. Course Title (授業題目) : Conduct and Evaluate a Program

3. 授業の目的と概要：前期にデザインしたプログラムをチームで実施し、そのプログラムを評価する。プログラムを実施する中で、日本語の授業を行うだけではなく、その他の活動のコーディネーターも行い、総合的にプログラムを運営する。またプログラム評価のためのデータも集め、それをもとにプログラムの評価を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students will carry out the program designed last semester in using a team teaching approach, and evaluate the program. When they conduct the program, they will not only teach Japanese in class but also coordinate the whole program. Meanwhile, they will collect data in order to evaluate the whole program at the end.

5. 学習の到達目標：

- ・ 目的を達成するために日本語の授業を実施したり、活動を行ったりしてプログラムを適切に運営することができる。
- ・ 収集したデータを分析し、適切にプログラムの評価を行うことができる。
- ・ チームで協力し、担当した役割を果たしながら協働で運営することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : After completion of this course, students are expected to:

- ・ teach Japanese in class and conduct activities appropriately in order for learners to achieve a goal
- ・ analyze data collected during the program and evaluate the program based on the data appropriately
- ・ play their own roles and coordinate the whole program collaboratively

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回： 模擬授業と振り返り①
- 第2回： 模擬授業と振り返り②
- 第3回： 模擬授業と振り返り③
- 第4回： 模擬授業と振り返り④
- 第5回： 模擬授業と振り返り⑤
- 第6回： 模擬授業と振り返り⑥
- 第7回： 模擬授業と振り返り⑦
- 第8回： 模擬授業と振り返り⑧
- 第9回： 模擬授業と振り返り⑨
- 第10回： 実践発表の準備①
- 第11回： 実践発表の準備②
- 第12回： 発表の振り返り
- 第13回： 報告書準備①
- 第14回： 報告書準備②
- 第15回： まとめ

8. 成績評価方法：

レポート (20%)・実習の運営と実施 (50%)・課題 (30%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.

10. 授業時間外学習：基本的に実習は授業外の時間に行われます。授業の中ではその準備と振り返りを行います。

Teaching practicum will be conducted outside of the class while preparation and reflection will be carried out in the class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

日本語教育学研究実習Ⅰを履修し、単位を取得していることがこの科目の履修条件です。